

「大学入学共通テスト英語」で気をつけたい点

(編) 八幡成人

2021年1月17日

1月16日(土)に行われた「大学入学共通テスト」(リーディング・リスニング)において、出題で気になった点をまとめてみた。

(1) 圧倒的な分量増加!

リーディングで1100語以上、リスニングでも300語以上の語数増加が見られる。圧倒的な分量を出題することで、語彙力・速読力のない生徒は最後まで解き切ることができない。今回の出題で生徒の一番のネックになるのがこの点だ。「時間が足りない」「予想と違い、頭が真っ白になった」という声が多数聞かれることだろう。

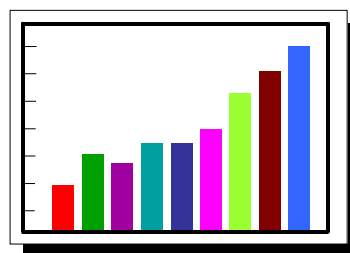
(2) 日常生活場面での出題多し!

<リーディング>において、第1問A・携帯電話のメール、第1問Bファンクラブオフィシャルサイト、第2問A・大会採点表、第2問B・オンラインフォーラム、第3問A・経路図、第3問B・学校ニュースレター、第4問・時刻表、観客グラフ、行程表、第5問・スライド、第6問A・プレゼン資料、第6問B・甘味料甘さ表、といったように日常生活場面で出くわす材料がふんだんに登場した(実際のコミュニケーション場面を意識)。「試行テスト」以上に資料の多さが目立った。

(3) 図・ワークシート・グラフからの情報整理

<リーディング>

- ・第1問Bのファンクラブサイト
- ・第2問Aのバンド大会採点表
- ・第3問Aの経路図



- ・第4問の時刻表&観客数グラフ&行程表
- ・第5問のスライド ※この第5問は難易度が相当高く読みづらい文章です
- ・第6問Aのプレゼン資料
- ・第6問Bの甘味料の甘さ表 ※専門用語が多いため読みづらい文章

<リスニング>

- 第4問Aの学校外での生徒活動グラフ
- 第4問AのDVD割引率表
- 第4問Bのミュージカル表
- 第5問の講義ワークシート&仕事・生活バランスグラフ
- 第6問のレシートに関するグラフ

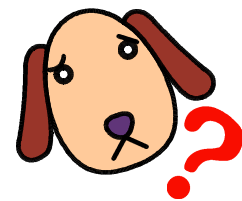
これらは全て、英文中に出てくる情報を、資料と重ね合わせ関連づけながら読んで整理をすることが求められている。予想以上にこの傾向の問題が多かった。「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする」という大学入試センターの作成方針に沿った出題。「思考力」「判断力」を問う。

(4)「推測」を求めている問題

本文に与えられた情報から、「推測」して考えられることを求めている問題が、予想以上に多 かった。これは大学入試センターの出題の方針「推測力」に沿った出題。

<リーディング>

- 第1問A問2 メッセージに対する返信内容を推測する
- 第2問A問5 コンテストの順位決定
- 第2問B問5 新方針に反対を援護する調査内容は？
- 第3問A問2 最速の交通手段は？(計算問題)
- 第3問B問3 記事を読んだ後取るべき行動は？
- 第4問問2 行程表の完成 問5 第3案の内容の推測
- 第5問問2 登場人物の整理



<リスニング>

- 第2問問10 「汚れるかもしれない」から「軍手」を、「天気がいい」から「帽子」を推測
- 第3問問13 最初に片づけるものは？
- 第6問問35 選択内容

(5) 「試行テスト」より配点・設問数の若干の変更

<リーディング>において

第3問 2点→3点

第5問 5点→3点 設問数1問増加

<リスニング>

第1問 AとBの配点が入れ替わり、Aが各4点となった

第2問 3点から各4点に

第3問 設問数4→6に

平均点(50点を想定)を調整するための戦略であろう。

(6) イギリス英語の出題

リーディング・リスニングともに、予告通り「イギリス英語」が出題された。<リーディング>では、イギリス英語特有の語彙(posted, Head Student, post, Head Teacher, underground)や綴り(realise, Centre, center, organise, learnt)や文法(suggest that ~ should V, 15 March 2021)が英文中に見られた。

<リスニング>では第3問 問15、問17、第4問B、第6問Bにイギリス人話者、外国人が登場している。

今回のものはイギリス英語を意識していなくても、解答には全く影響はなかった。

(7) 基本的な文法も読解に必須!

<リスニング>において、基本的な文法事項を押さえておかないと、英文を正しく読解することができない、という出題が目についた。

第1問 Question No. 5 **Almost** everyone at the bus stop is wearing a hat.の絵を選ぶ問題は **almost** という基本語が「もうちょっとで～になる」という意味であることを知らないと正しく理解できない。このことは2019年「センター試験」、2回にわたる「試行テスト」で計4回も出題されており、私が何度も注意喚起をしてきた。

第2問 Question No. 11 Down there, next to the lockers **across from** the restrooms.
オーラルコミュニケーションの道案内の授業などで、生徒が必ずつまづく **across from** という表現を出題。必ず間違える問題。パッと聞いて分かりづらい表現。

<リーディング>においても、第5問で出来事の描写に過去形と過去完了形が多数出てくる。時間関係を読み取るのに「過去完了」を正しく理解しておかねばならない。

(8) 「出来事」の並べ替えにダミーが

「試行テスト」では「感情の推移」と「出来事」を時系列に並べる問題が出題されていたが、「共通テスト」では2問とも「出来事の並べ替え」となった。第5問では選択肢が5個あるのに、並べるのは4個と、1個のダミーが加えられた。そのダミーも全く関係ない内容ではなく、本文中に登場しており、図中の「有名になる前」のという条件を見落とすとひっかかかると、という手の込んだダミーとなっていた。この第5問は《難》。

(9) 「できた！」と思わせて…

<リスニング>では「分かった！できた！」と思って答えてしまうと、最後の最後にどんでん返しが述べられており、引っかかるという出題が見られた。最後の最後までよく聞くという習慣が求められる。日常のコミュニケーションを意識した出題。

第3問 Question No. 12 最後にどんでん返しが

第4問 Question No. 22-25 最後にもう1つの条件が追加